

## 第7回「山形県家計消費動向調査」結果 (平成20年3月調査)

### 【調査結果の要旨】

消費指数は前回調査時点(平成19年12月)よりも2.6ポイント低下し、107.3となるなど、消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が57.9、暮らし向き指数が49.4となっており、いずれも前回より低下した。特に景気と雇用環境に関する認識が悪化したことがマインド低下につながった。

今後の見通しについては、消費指数が4.9ポイント低下し112.2となるなど、消費マインドの悪化が続く見込み。

特別調査：食品の安全性について

- ・ 1年前と比較し、食品を購入する際に不安が「増した」世帯：92.5%。
- ・ 不安が増した事柄、原因は「輸入食品」が最も多く93.5%。
- ・ 食品を購入する際に重視している事柄は「生産地・原産地」が最も多く94.5%。

平成20年3月

株式会社荘銀総合研究所

## 目 次

・ 今月の消費指数 .....	1
・ 調査結果 .....	3
1 . 景気判断と見通し .....	3
県内景気 .....	3
雇用環境 .....	4
日用品価格（物価） .....	5
2 . 暮らし向き判断と見通し .....	6
世帯（勤労）収入 .....	6
資産価値 .....	7
お金の使い方 .....	8
生活のゆとり .....	9
3 . 日常の買い物に関する判断と見通し .....	10
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど） .....	10
ファッション衣料・靴など .....	10
家電・AV製品、家具など .....	11
金融商品（株式、債券など） .....	11
娯楽・レジャー .....	12
習い事 .....	12
交際費 .....	13
4 . 大きな買い物に関する判断と見通し .....	14
自家用車 .....	14
住宅の購入・リフォーム .....	14
5 . 特別調査：食の安全性について .....	15
食品購入の際の不安 .....	15
不安が増した事柄、原因 .....	16
食品購入時に重視する事柄 .....	16
・ 調査の概要 .....	17

## ・今月の消費指数

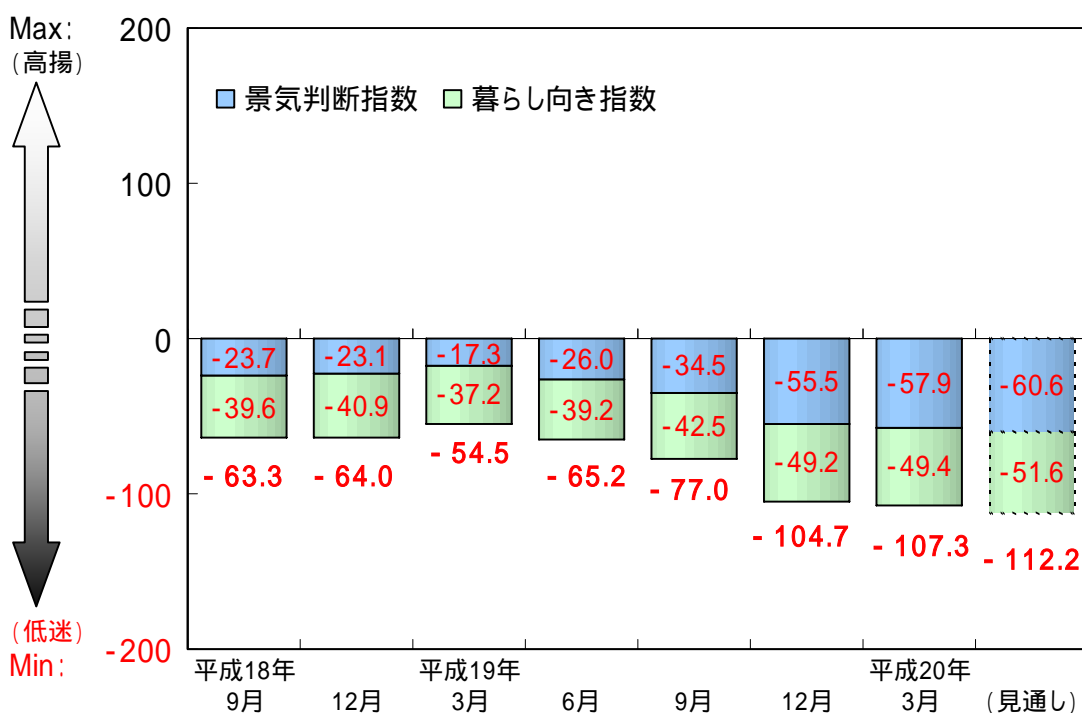
**消費指数は 107.3 ~ 消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況 ~**

消費指数は前回調査時点(平成19年12月)よりも2.6ポイント低下し、107.3となるなど、消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が57.9、暮らし向き指数が49.4となっており、いずれも前回より低下した。特に景気と雇用環境に関する認識が悪化したことがマインド低下につながった(次頁参照)。

なお、今後の見通しについても、消費指数が4.9ポイント低下し112.2となるなど、消費マインドの悪化が続く見込み。

### 消費指数の推移



#### 【指数の見方】

消費指数は 景気判断指数と 暮らし向き指数の合計からなり、値は200～ -200の範囲をとりま  
す。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナス  
であれば、消費マインドは低迷していると判断します(詳しくは . 調査の概要6 . 指数の作成方法  
をご覧ください)。

景気判断指数(指数レンジ 100～ -100):

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、  
「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

暮らし向き指数(指数レンジ 100～ -100):

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、  
「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

消費指数の推移（内訳）

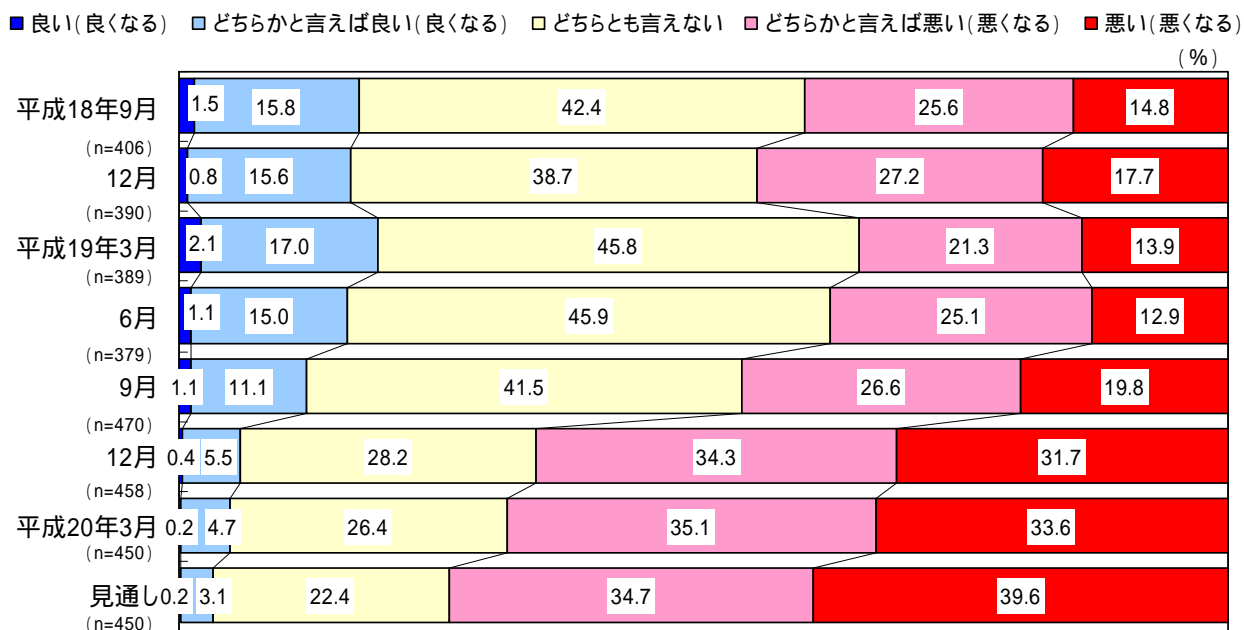
	平成 18 年		平成 19 年				平成 20 年		見通し
	9 月	12 月	3 月	6 月	9 月	12 月	3 月		
<b>消費指数</b> (前回差)	- 63.3	- 64.0 ( - 0.7)	- 54.5 (9.5)	- 65.0 (-10.5)	- 77.0 (-12.0)	- 104.7 (-27.7)	- 107.3 (-2.6)	- 112.2 (-7.5)	
<b>景気判断指数</b> (前回差)	- 23.7	- 23.1 (0.6)	- 17.3 (5.8)	- 25.9 (-8.6)	- 34.5 (-8.6)	- 55.5 (-21.0)	- 57.9 (-2.4)	- 60.6 (-5.1)	
<b>景気</b> (前回差)	- 6.1	- 7.6 ( - 1.5)	- 4.7 (2.9)	- 5.6 (-0.9)	- 8.8 (-3.2)	- 15.2 (-6.4)	- 16.2 (-1.0)	- 18.4 (-3.2)	
<b>雇用環境</b> (前回差)	- 3.6	- 5.0 ( - 1.4)	- 4.0 (1.0)	- 3.9 (0.1)	- 9.1 (-5.2)	- 12.1 (-3.0)	- 13.3 (-1.2)	- 14.7 (-2.6)	
<b>物価</b> (前回差)	- 14.0	- 10.5 (3.5)	- 8.6 (1.9)	- 16.4 (-7.8)	- 16.6 (-0.2)	- 28.2 (-11.6)	- 28.4 (-0.2)	- 27.5 (0.7)	
<b>暮らし向き指数</b> (前回差)	- 39.6	- 40.9 ( - 1.3)	- 37.2 (3.7)	- 39.1 (-1.9)	- 42.5 (-3.4)	- 49.2 (-6.7)	- 49.4 (-0.2)	- 51.6 (-2.4)	
<b>世帯収入</b> (前回差)	- 8.0	- 8.0 (0.0)	- 6.8 (1.2)	- 6.8 (0.0)	- 8.7 (-1.9)	- 10.3 (-1.6)	- 9.9 (0.4)	- 11.5 (-1.2)	
<b>資産価値</b> (前回差)	- 9.7	- 10.1 ( - 0.4)	- 9.0 (1.1)	- 9.9 (-0.9)	- 9.3 (0.6)	- 11.4 (-2.1)	- 11.3 (0.1)	- 12.4 (-1.0)	
<b>支出状況</b> (前回差)	- 8.6	- 9.4 ( - 0.8)	- 8.5 (0.9)	- 9.6 (-1.1)	- 10.6 (-1.0)	- 11.7 (-1.1)	- 12.3 (-0.6)	- 14.0 (-2.3)	
<b>暮らしのゆとり</b> (前回差)	- 13.3	- 13.4 ( - 0.1)	- 12.9 (0.5)	- 12.8 (0.1)	- 13.9 (-1.1)	- 15.8 (-1.9)	- 15.9 (-0.1)	- 13.7 (2.1)	

## 調査結果

### 1. 景気判断と見通し

#### 県内景気

現状認識は「悪い」(33.6%)と「どちらかと言えば悪い」(35.1%)が68.7%を占めており、県内の景気に対する不安は増加傾向にある。また、今後の見通しについても「悪い」(39.6%)と「どちらかと言えば悪くなる」(34.7%)と考えている世帯の割合がさらに増え、先行き不安が増大する見込み。



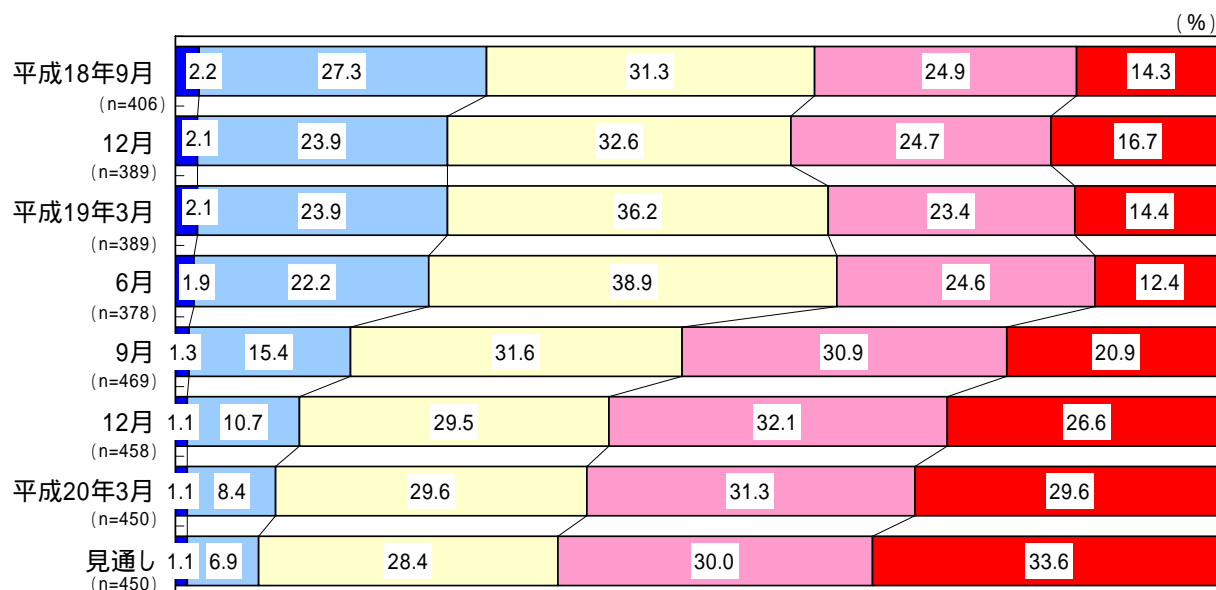
#### 【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ かなり景気の後退感を感じます。先が見えなく不安ですが、今が最悪と思いつつ生活していかなばと思います。東北でも仙台一極集中が続いているように思います。(庄内地区 67歳 ~299万)
- ・ 今後の暮らしは「円高」と「原材料高」の二重苦です。さらに値上げラッシュに拍車がかかると予想されます。また、株安直撃が賃上げにも影響すると思われ、今後の家計の動向や暮らし向きに暗雲が立ち込めると思われます。(庄内地区 81歳 300~499万)
- ・ 定率減税の廃止、原油高、物価高の今後への影響が予想できず、今後の暮らしに不安が募ります。政治で地方格差が話題となっていますが、地方が自力で向上するのは厳しいと思います。人がいなくなり物が売れていないのでは悪循環のままです。ぜひ行政にがんばってもらいたいものです。(庄内地区 27歳 500~799万)
- ・ 民間企業で働いている限り、上向きになったという実感がまったくありません。日々詰まっただけです。(最上地区 75歳 300~499万)
- ・ 景気回復の実感がありません。また、景気の先行きが見えず少なくとも楽観視はできないと思われ。株安の現状では長い目で日本経済の上昇を静観することしかできないのが現状です。(村山地区 32歳 500~799万)
- ・ パートなどの賃金体制が変わるなど、少しずつ働きやすい世の中に変わってきた気がしますが、私的には時給や待遇も変わらなく、夫の会社も今だ家族手当などがつきません。正直ニュースで報道されていることは違う国の事を言っているのではと思ってしまいます。景気の良さが肌で感じられるのはまだまだ先のことだろうと思う。(庄内地区 33歳 300~499万)

雇用環境

現状認識は「悪い」(29.6%)と「どちらかと言えば悪い」(31.3%)を合わせると60.9%が悪いと判断しており、雇用環境は引き続き厳しさを増している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(33.6%)と「どちらかと言えば悪くなる」(30.0%)と考えている世帯が63.6%となっており、先行きの見通しに対し悲観的な見方を持つ世帯がさらに増える見込み。

■ 良い(良くなる) □ どちらかと言えば良い(良くなる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば悪い(悪くなる) ■ 悪い(悪くなる)



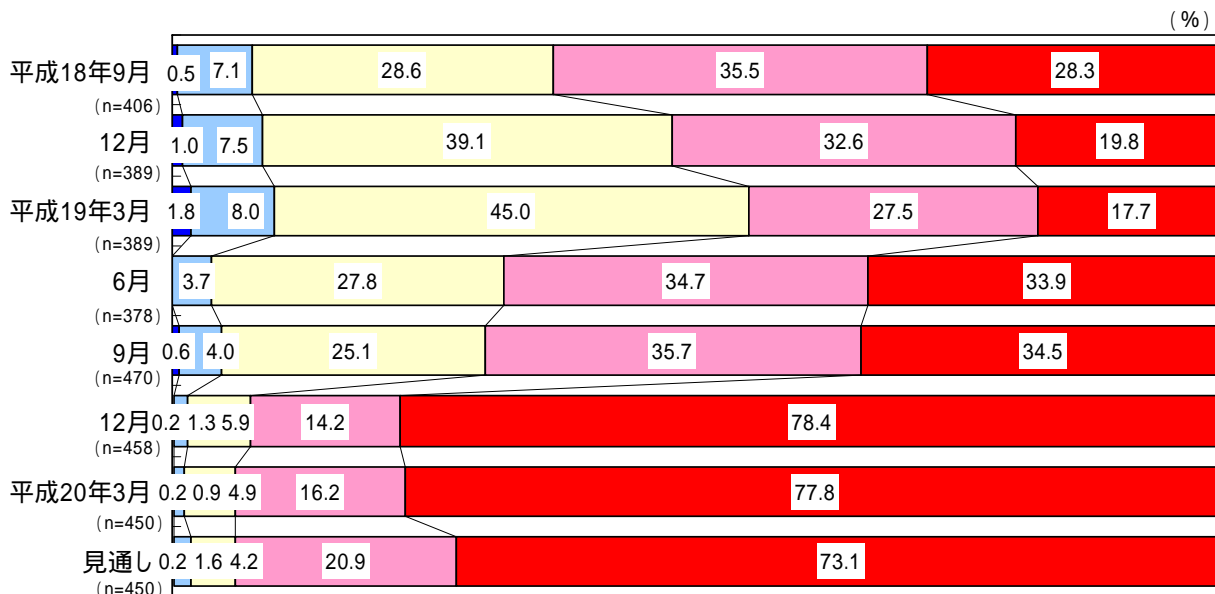
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 年々収入が減少し、再雇用状況も厳しくなっていると実感しています。将来への不安もあり、家計を切り詰めるべく努力する毎日です。(最上地区 73歳 300~499万)
- ・ 格差社会はますます拡大しており、自分も含め全家族がワーキングプアになりました。生活困窮家族で生活は苦しくなるいっぽうです。(村山地区 64歳 ~299万)
- ・ 3月末で夫の契約が切れるため、私は年明けから仕事を探していますが、土日祝日の仕事がなかなか見つからなく困っています。子供がいるだけでこんなに働けないとは思っていませんでした。(置賜地区 31歳 -)
- ・ 雇用の場が少ないことが不安感を大きくしています。都会に行かなければ安定した収入を得るだけの職がないのでしょうか。(最上地区 67歳 500~799万)
- ・ 私が仕事をやめたため、ますます生活が苦しくなりました。フルタイムでと考えているのでなかなか仕事が決まりません。(村山地区 51歳 300~499万)
- ・ 正社員を採る会社が増えてほしい。今はしょうがなく派遣社員として働いています。(置賜地区 24歳 300~499万)
- ・ 家計の状況は本当に厳しくなるばかりで、今働いている会社でも1、2年後どうなるかわからない不安定な状態です。若い人、50代くらいの人にも保証があり、安定した給与をもらえる会社は置賜には少なく、求人も少ないです。山形県自体未来がないと思われます。(置賜地区 59歳 500~799万)
- ・ 子供がまだ小さいので、思うように働くことができず困っています。少子化を問題にあげているのに、子供や子供を持つ親が安心して暮らせる社会は確立されていません。(庄内地区 29歳 ~299万)
- ・ 契約社員として働いている世帯主の私が3月末で退職となります。雇用状況はまったく安心できず、庄内景気は底です。(庄内地区 54歳 500~799万)
- ・ 物価、雇用面は依然として変化なしだと感じております。障害を持つ方、時間的に自由が利かない方にも在宅で可能な仕事が増えるといいなと期待しております。(村山地区 34歳 300~499万)

日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（77.8%）と「どちらかと言えば上がった」（16.2%）が 94.0% を占めるなど、依然として物価上昇を実感している世帯が多い。また、今後の見通しについても、「上がる」（73.1%）と「どちらかと言えば上がる」（20.9%）を考えている世帯が引き続き 9 割を超えているなど、依然として物価上昇を憂慮する傾向にある。

■ 下がった(下がる) □ どちらかと言えば下がった(下がる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば上がった(上がる) ■ 上がった(上がる)



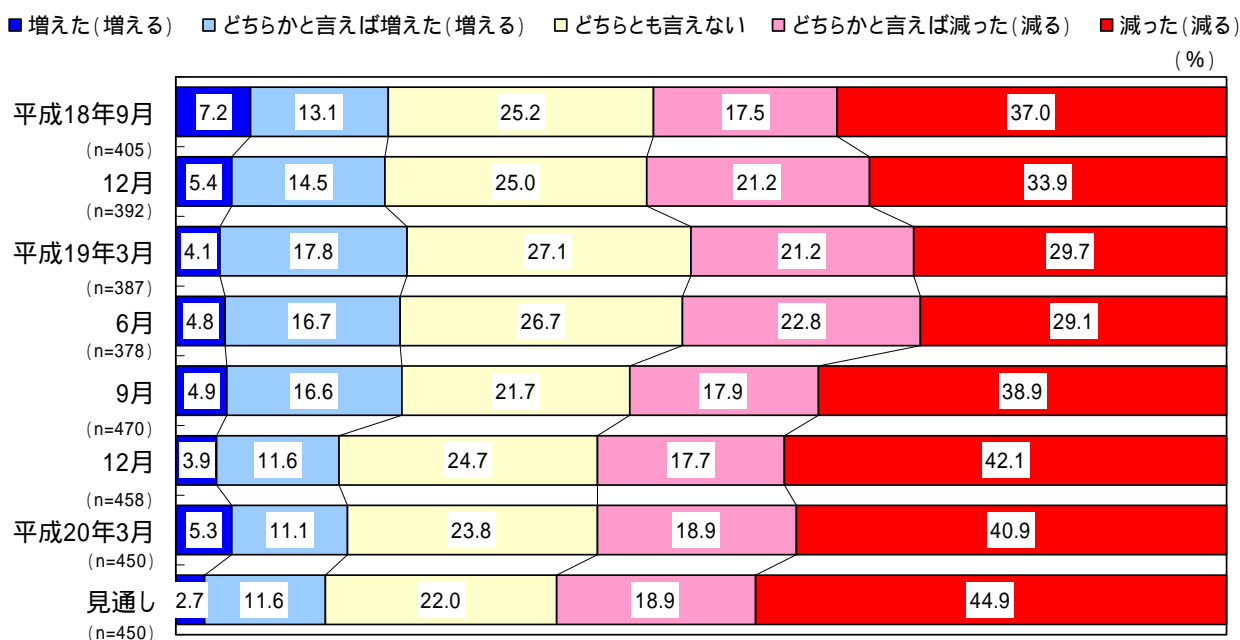
【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

- ・ 食品や原油の値上げラッシュの中、スーパーで自社ブランドとして製造している食品は安く、味も他社の製品と変わらないので頻繁に購入していましたが、その製品も価格はそのままで量が少なくなっています。これにはちょっとがっかりです。（村山地区 36歳 ~299万）
- ・ パン、紙類の価格が上がりました。また、娘が中学校入学の時期であり、制服も昨年より1割価格が上昇しています。4月はいろいろ出費が多い時期です。（村山地区 50歳 800万~）
- ・ 食品をスーパーで購入する際、価格をチェックするとやはり少しずつ値上がりしているようです。麺類、乳製品など毎日使用するものの出費が増えるため、他の消費をおさえることを考えています。必要なもの以外買わないことが一番ですね。（最上地区 50歳 500~799万）
- ・ 食品やガソリン価格の高騰は、いつ歯止めが効くかわからない状態であるので、食費の節約を強化していきたいと思っています。なるべく手作りをして上手にやりくりしていきたいです。（置賜地区 78歳 500~799万）
- ・ 小麦製品のパン、カップめん、うどんなどが高くなってきており、ご飯食にかえようかなと思っているところです。（村山地区 34歳 500~799万）
- ・ 日用品や食品などの価格が上がり、特価品や日替わり品のチェックをしてから買い物に行くようになりました。また、財布に余分なお金を持ち歩かないようにしています。（置賜地区 52歳 300~499万）
- ・ 小麦の価格上昇などさまざまな食品が値上がりしています。しかし、食べないわけにもいかず、結果としてエンゲル係数が上がっています。（村山地区 33歳 300~499万）
- ・ 石油や小麦の価格高騰により生活用品、食品が次々と値上げし家計を圧迫しています。安い商品を購入しようと思っはいますが、まずは安全を第一と考え購入しなければならず、商品を見極めることが必要になってきています。（村山地区 37歳 300~499万）
- ・ 灯油、ガソリン価格の高騰によって、冬場はだいが家計を圧迫されました。生活水準を下げずに限られた収入をどう切り詰め、配分していくかが主婦の頭の使いどころです。（村山地区 47歳 500~799万）

2.暮らし向き判断と見通し

世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(40.9%)と「どちらかと言えば減った」(18.9%)が59.8%を占めており、依然として世帯が収入は減ったと感じている世帯が増加している。また、今後の見通しについても、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えているなど、収入増加への期待感は薄い。



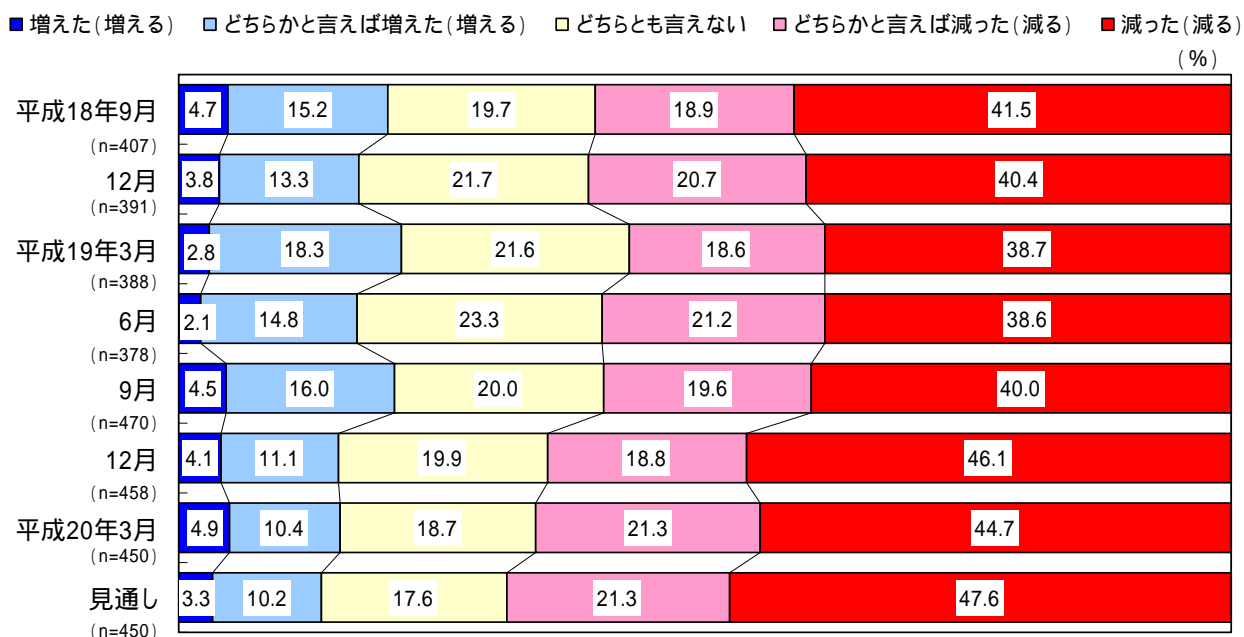
【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

- ・ 今後の賃金上昇も望めない状況で、残業で何とかしているところですが、中小企業では限界もあると思っています。(村山地区 32歳 300~499万)
- ・ 給料が上がらない以前に手当が減らされており、日常の生活品もなるべく安くしているものを探してやりくりしています。支出で足りない分は、ボーナスをくずして使っているためますます貯金が難しくなりました。(庄内地区 44歳 500~799万)
- ・ 税金、物の値段などが上昇する一方、給与は頭打ちで結局消費を手控えるしかやりくりの仕様がありません。せめてもう少し給与のベースアップを願っています。(村山地区 45歳 800万~)
- ・ 給与水準は低めであり、賃上げなども大手企業と違ってまったく縁遠い。4月からは一気に仕事量も減り、職場ではリストラも懸念されます。今年は秋まで仕事量の増加は望めないとの情報に社員は落胆しています。(庄内地区 47歳 300~499万)
- ・ 特に冬から春にかけては、光熱費や交際費がかかるわりに賞与も少なく困っています。去年に比べ残業も少ないので、手取りも少なくなってしまう大変です。(村山地区 29歳 300~499万)
- ・ 物価は上がる一方、給料はなかなか上がらず将来に対する不安は大きい。子供をつくりたいという希望はあっても夫婦二人で働いてやっと生活している現状であるため将来に対する不安で家族を増やす勇気が持てません。(庄内地区 34歳 300~499万)
- ・ 相変わらずの原油高で給料カットや終業時間の変更(残業代を減らすため)など、昇給しても給料は増えず、会社の対応に不満を持っています。このままいけばどうなるのかという不安です。(村山地区 49歳 300~499万)



資産価値

現状認識は「減った」(44.7%)と「どちらかと言えば減った」(21.3%)が66.0%を占めており、資産価値が減ったと感じている世帯の増加が続いている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が増え、資産価値の増加を見込む世帯は依然として少ない。



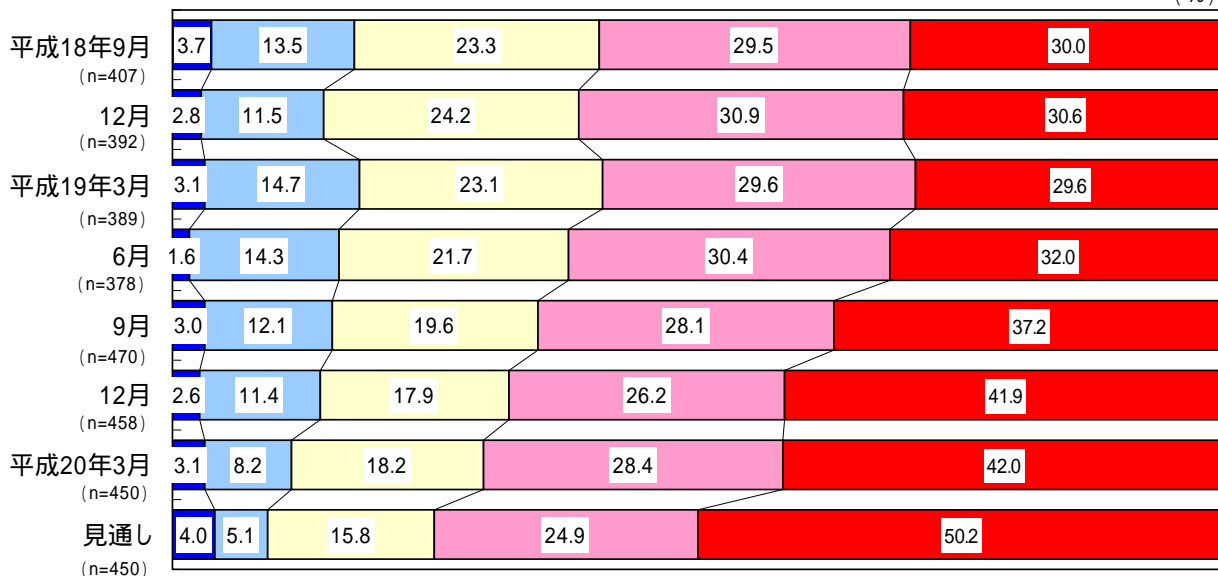
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- 生活商品の値上がりをはじめまっていることから、ますます金融商品の競争は高まると予想されます。特に住宅ローンや保険全般。(村山地区 39歳 800万~)
- 投資信託の価格が下がり、今後増やすか減らすか迷っています。(村山地区 48歳 800万~)
- 株価が不安定で配当金も今までより少なく不安的な要素が大きいです。(村山地区 56歳 500~799万)
- 給与収入が増えないのに物価だけが上がり貯蓄が減っています。株価も下がり、また冬の時代に突入しているような気がします。(置賜地区 42歳 300~499万)
- 保険や金融商品の見直しを検討しなければならないと思っています。(庄内地区 72歳 300~499万)
- アメリカの景気低迷の影響で投資信託や株は塩漬け、評価損のまま。ここに来て103円の円高。本当に株関係はがまんがまんの毎日です。(置賜地区 45歳 500~799万)
- 住宅ローンの金利の引き上げが行われました。変動金利だったので、借換えなども視野に入れていかなければと考えています。できるだけ生活も切り詰めて早期完済を目指したいです。(村山地区 28歳 500~799万)
- 投資信託が下落のためこの先不安です。(村山地区 62歳 ~299万)
- サブプライムローンを発端とする世界的な景気の減速感日々の暮らしにも現れていると思います。投資信託をやっていますが、配当金は減りました。また、毎日のニュースで株安と聞くと今後どうなるのかわからないので、あまりお金を使わず将来のために蓄えようと思ってしまう。(庄内地区 55歳 800万~)

お金の使い方

現状認識は「控えている」(42.0%)と「どちらかと言えば控えている」(28.4%)が70.4%を占めており、お金を使うことを控えている世帯の割合は増加傾向にある。また、今後の見通しについても「控える」という世帯がさらに増えているなど、節約思考の世帯が一段と広がる見込み。

■ 積極的 □ どちらかと言えば積極的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える) (%)



【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

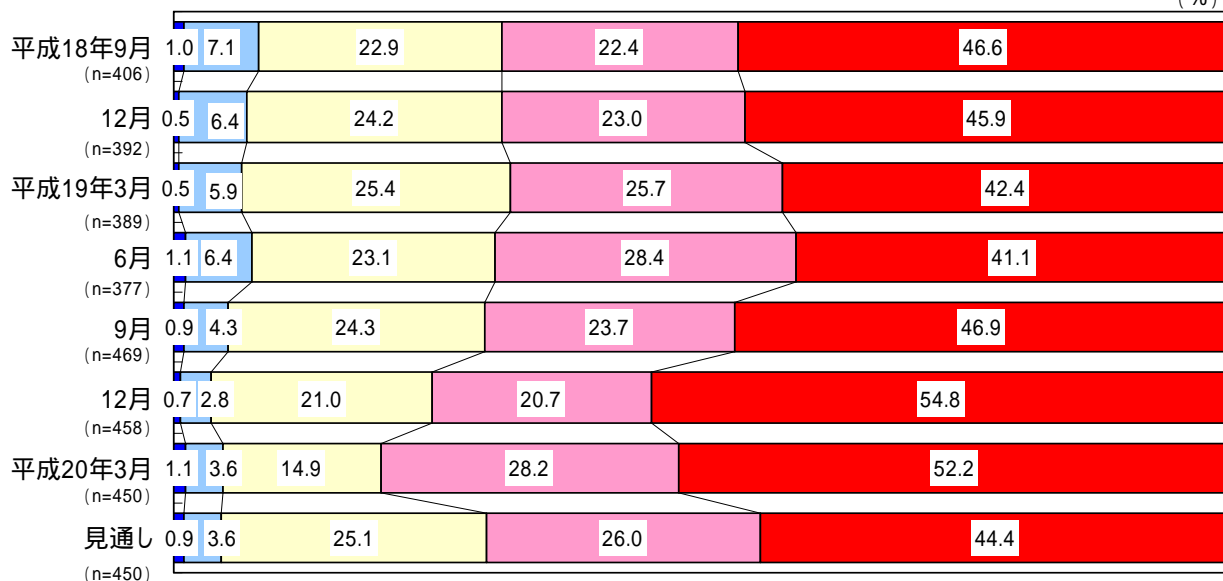
- ・ 以前は洋服などは長持ち、質の良さなどを重点にブティックやデパートなど割と高価なものを買っていたが、昨年あたりから安価な品物を買うことが多くなりました。シーズンごとに買い換え、来シーズンまで着ようとは考えなくなりました。(村山地区 59歳 300~499万)
- ・ 今まで家計が苦しいとついつい食費を削ってしまいがちでしたが、中国冷凍食品などの問題が起こり、ただ価格だけを重視することから品質重視を考えるようになりました。(村山地区 42歳 300~499万)
- ・ 仕送りの必要な子供がいるため家計はぎりぎりです。しかし、必要な経費は貯金を取り崩し、生活にメリハリをつけるようにしています。安い切符が手に入るときに東京に出かけて楽しんでいるなど、たまの贅沢を十分味わうよう心掛けています。(庄内地区 58歳 500~799万)
- ・ 子供が働き出して、いくらかでも家計に入れてくれるようになり、楽になるのかと思いきや、年代的に家の改築や交際費にお金がかかり、光熱費なども高いので困っています。ローンの取りまとめや生命保険を安い掛け金にかえようかと思っているところです。(村山地区 55歳 500~799万)
- ・ 子供の成長に合わせてとにかく食費にお金がかかります。自分にかかるお金をなるべく減らし出費にまわしています。これからの教育費を考えると途方にくれてしまいそうです。(村山地区 49歳 300~499万)
- ・ ガソリン、灯油の値上げが今年はかなり家計を圧迫しているため、オール電化への関心が強くなってきました。(置賜地区 60歳 800万~)
- ・ 光熱費が大変なのでエコキュートにしてガスから電気にかえる準備をしています。(村山地区 58歳 500~799万)
- ・ ガソリンは高いままなので、思い切って古い車を処分して新車を購入し、少しでも燃料代をおさえるようにしたいと思います。(庄内地区 40歳 500~799万)
- ・ ガソリンや灯油などの値上げがすべての食品や衣料などに波及しているのではと考えるにつけ、できるだけ石油エネルギーではないエネルギーの利用を考えています。薪ストーブやフェアトレード商品など。(庄内地区 52歳 -)

生活のゆとり

現状認識は「厳しい」(52.2%)と「どちらかと言えば厳しい」(28.2%)が80.4%を占めており、大半の世帯が暮らし向きは厳しいと感じている。ただ、今後の見通しについては、厳しいと見込んでいる世帯の割合は低下しており、いくぶん回復の期待が先行した。

■ ゆとりがある(できる) □ どちらかと言えばゆとりがある(できる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば厳しい(厳しくなる) ■ 厳しい(厳しくなる)

(%)



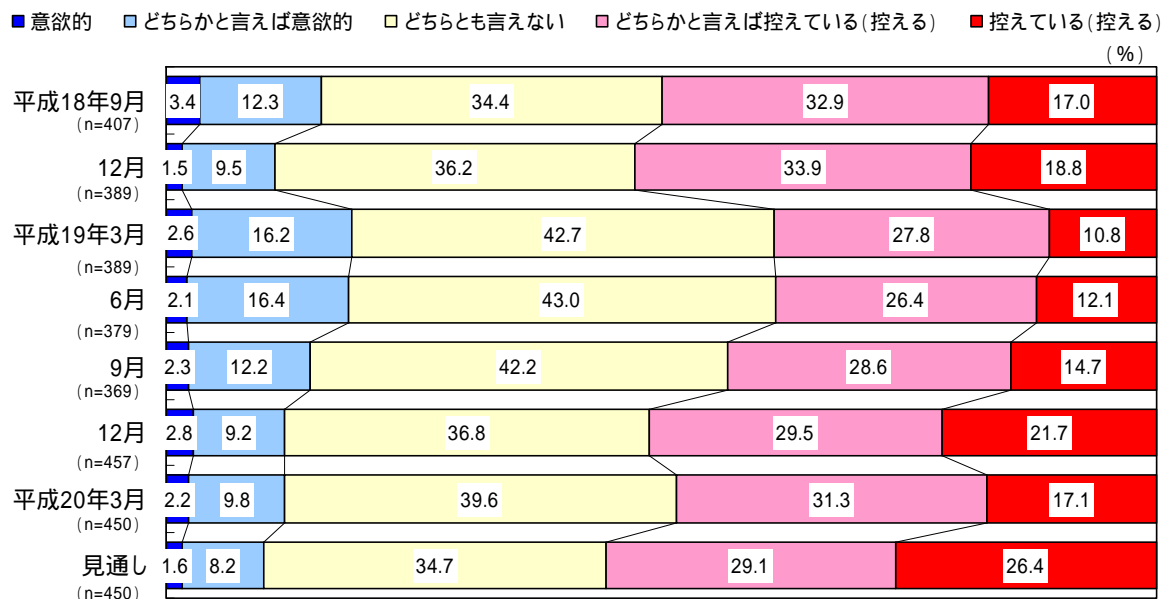
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ ガソリン、灯油、食料品の値上がりがとても厳しいです。できるだけ部屋は寒く、極力外出をしないようにしていますが、1回の買い物にかかる経費が上がっていることを実感します。収入もたいして上がらず、小さな子供のいる間は私も仕事ができず、何とか収入をあげる術を模索しているところです。(庄内地区 36歳 300~499万)
- ・ 光熱費とガソリン代の値上げに続き家計は火の車状態です。最近の食品の安全性への問題も重なり、安心安全な食品を買いたいと思いつつも、高いものがさらに値上げされまた手の届かない状態になりつつあります。食の安全を守りたい主婦にとっては本当に頭の痛い世の中です。(庄内地区 48歳 500~799万)
- ・ 原油高がもたらす値上げラッシュには本当にまっています。年齢も高くなるにつれて保険料が更新時に値上がりします。もっと安くいいものを求めて日々勉強中です。(村山地区 44歳 500~799万)
- ・ エコ生活及び経済面をふまえ、軽自動車を一台にしました。子供の送迎など不便はありますが心は豊かです。公務員のため収入は減る一方ですが、節約をプラスにとらえようと今までの無駄を必至に省き、シンプル生活を考えています。(村山地区 47歳 500~799万)
- ・ 原油の値上げで食品、生活用品が値上がりし、節約しても生活費はぎりぎりまたは赤字が続く日が増えていきます。(村山地区 - 300~499万)
- ・ 今年初めて一戸建ての家で冬を過ごしたのですが、アパートの時と比べ寒く、電気代、灯油もすごくかかりびっくりしています。物価も少しずつ上がっているし、税金の支払いもあるし、支出がたくさんあってとても貧乏しています。(村山地区 47歳 500~799万)
- ・ ガソリン、灯油の値上げに始まり、小麦粉や麺類も値上げ値上げで家計を圧迫するばかりです。今冬はシートを貼り、カーテンを長くし、コタツにヒーターから直接温風を入れ、電気毛布も湯たんぽにかえました。給料が上がらないのに子供の成長とともにお金がかかります。春から末っ子が幼稚園に入り、去年より苦しい生活が目に見えています。小麦などの値上がりで、6枚切り食パンを8枚切りにするなど、なんかかわびしい感じです。(村山地区 44歳 300~499万)
- ・ ガソリンや小麦など何でも価格が上がっているため、必要以上に車を使わず、食料品もなるべく安いところに行きに行くなどして生活をしながらはいけないとすごく感じています。家の中での生活もテレビの電源を抜く、水の出しっぱなしをしないなど節約を心がけています。(庄内地区 46歳 300~499万)

### 3. 日常の買い物に関する判断と見通し

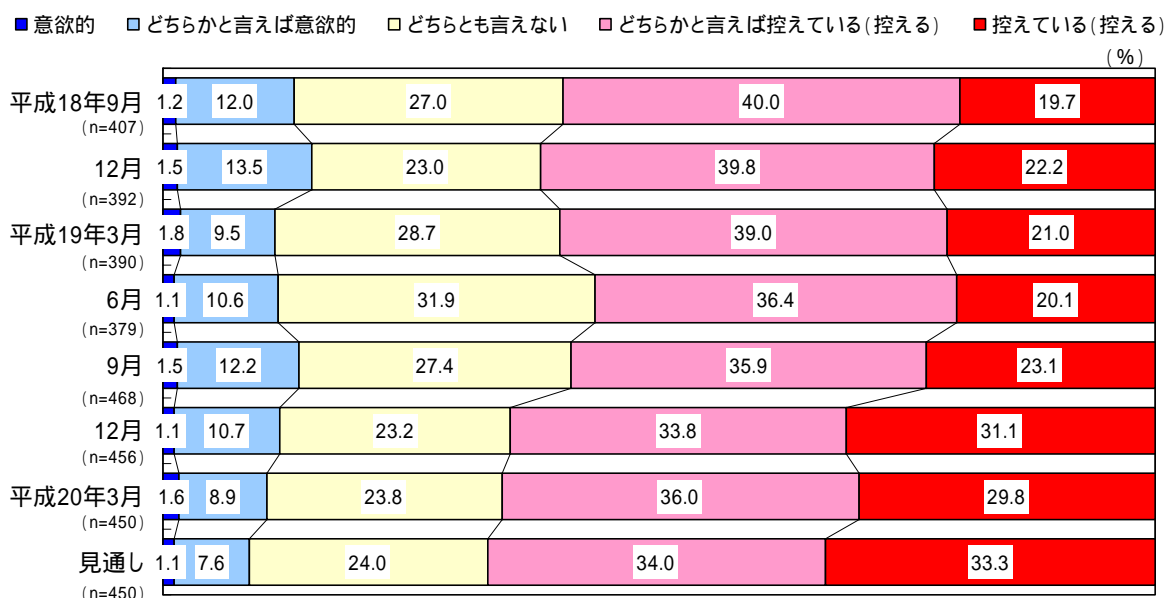
#### 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」(17.1%)と「どちらかと言えば控えている」(31.3%)が48.4%を占めているなど、前回調査時点と比較し嗜好品の買い控えがわずかながら改善された。ただ、今後の見通しについては購入を「控える」という世帯が再び増えるなど、節約に努める世帯は依然として多い。



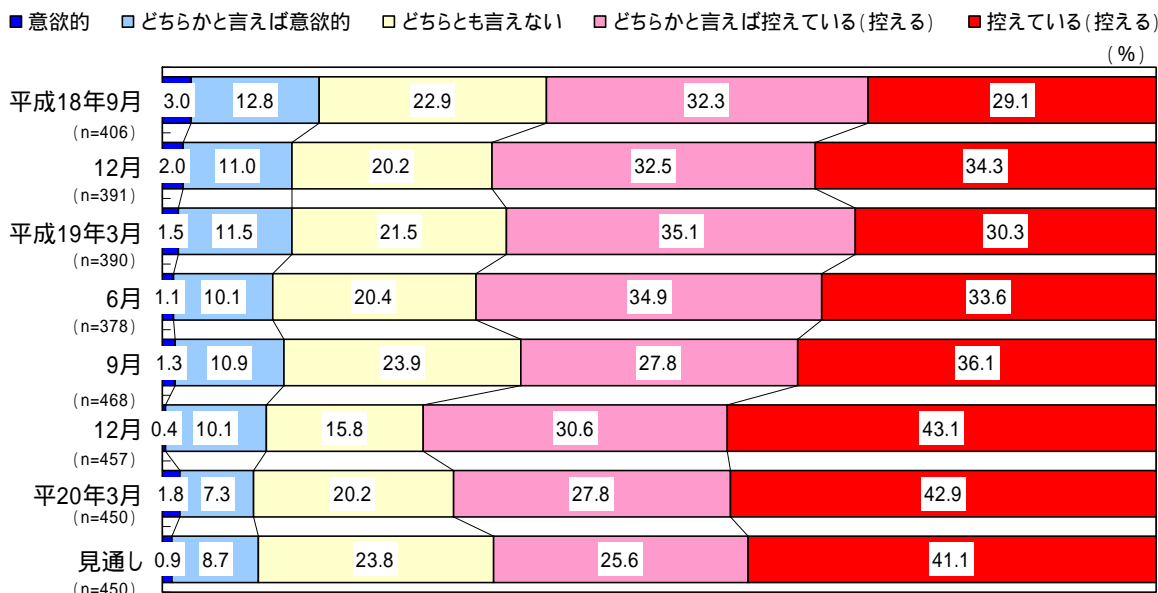
#### ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」(29.8%)と「どちらかと言えば控えている」(36.0%)が65.8%を占めており、引き続き買い控えの傾向が高まっている。また、今後の見通しについても買い控え傾向は続く見込み。



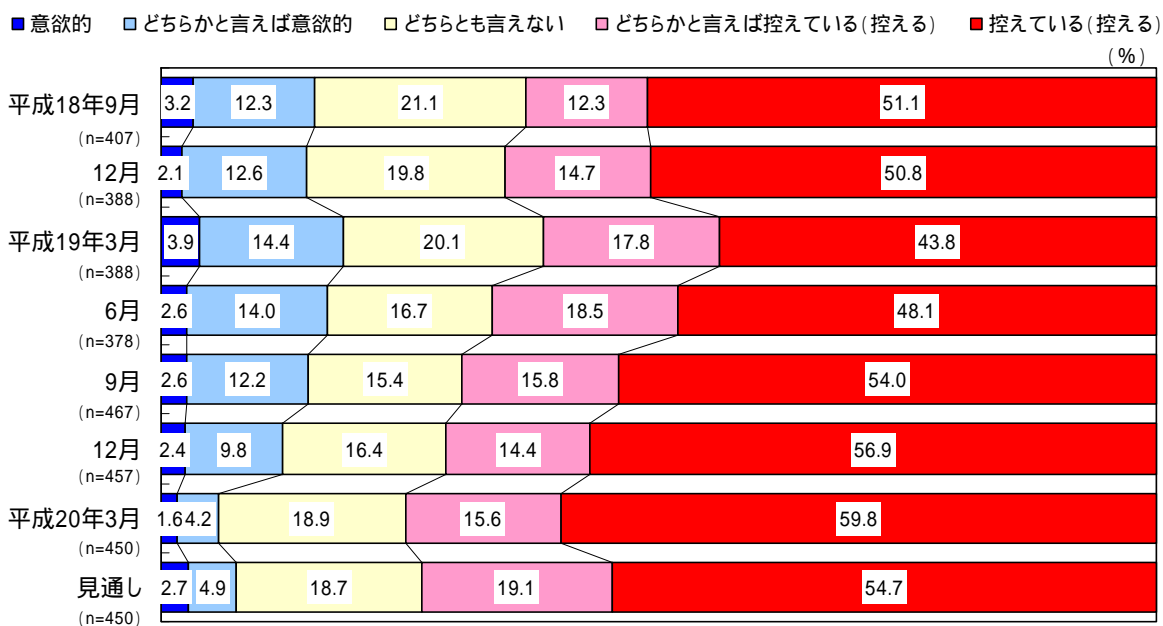
家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(42.9%)と「どちらかと言えば控えている」(27.8%)が70.7%を占めており、家電・AV製品、家具などの購入を控えている世帯が依然として多かった。ただ、今後の見通しについては、買い控え傾向は続くものの、購入意欲は穏やかに改善する見込み。



金融商品(株式、債券など)

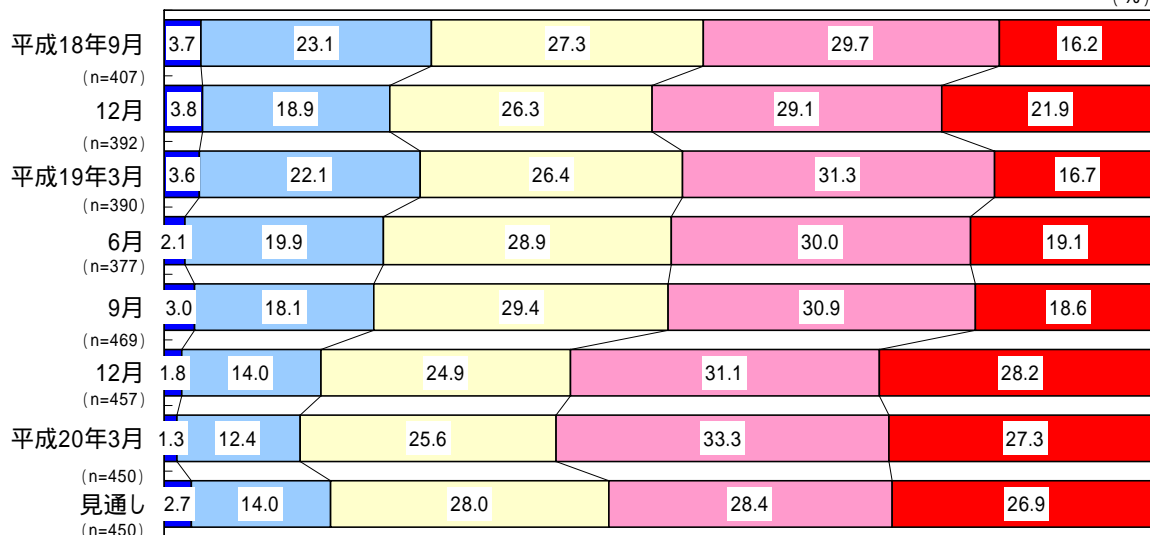
現状認識は「控えている」(59.8%)と「どちらかと言えば控えている」(15.6%)が75.4%を占めており、買い控えの傾向は徐々に高まっている。ただ、今後の見通しについては、購入を控えるという世帯は依然として多いものの、意欲的に購入したいとする世帯がわずかに増えている。



娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(27.3%)と「どちらかと言えば控えている」(33.3%)が60.6%を占めており、娯楽・レジャー等への支出を控えている世帯が多かった。ただ、今後の見通しについては、わずかながら支出に意欲的な世帯の増加が見られる。

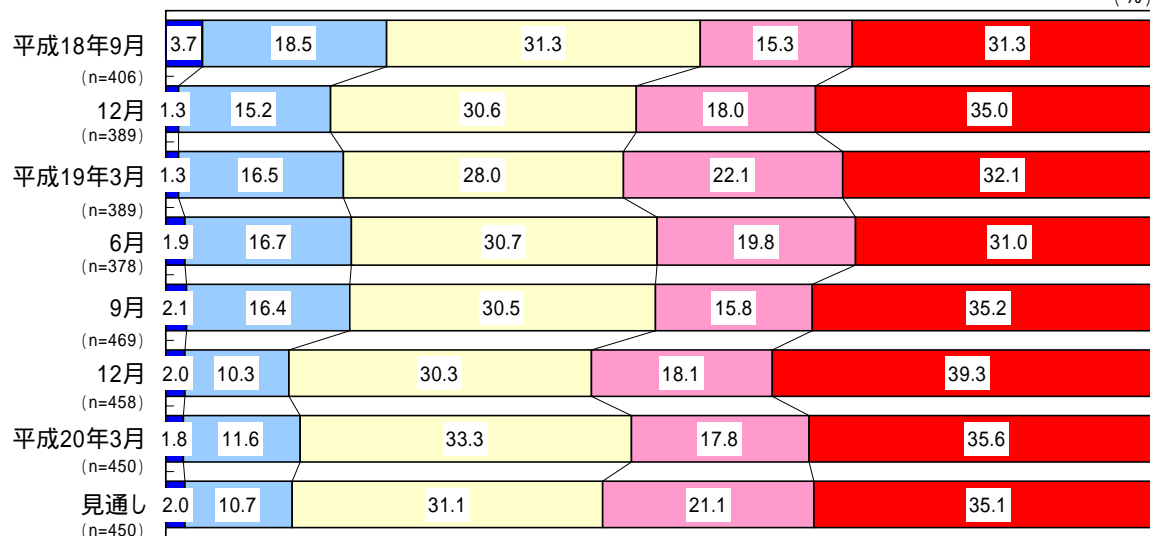
■ 意欲的 □ どちらかと言えば意欲的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える) (%)



習い事

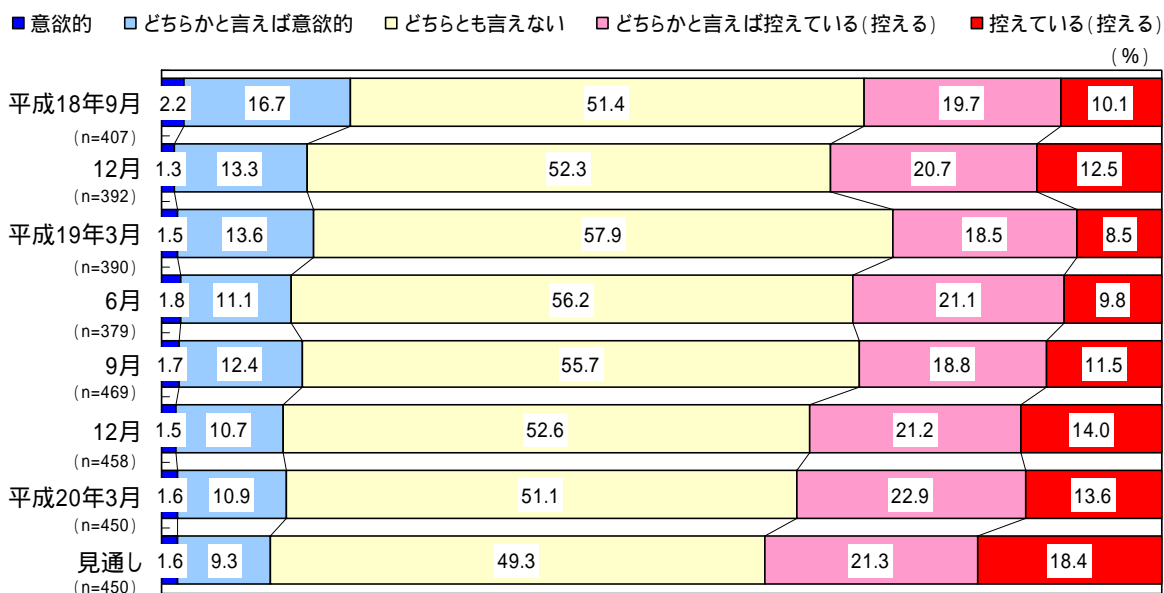
現状認識は「控えている」(35.6%)と「どちらかと言えば控えている」(17.8%)が53.4%を占めており、半数以上の世帯が習い事への支出を控えている。また、今後の見通しについても、支出を控える世帯は多い。

■ 意欲的 □ どちらかと言えば意欲的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える) (%)



交際費

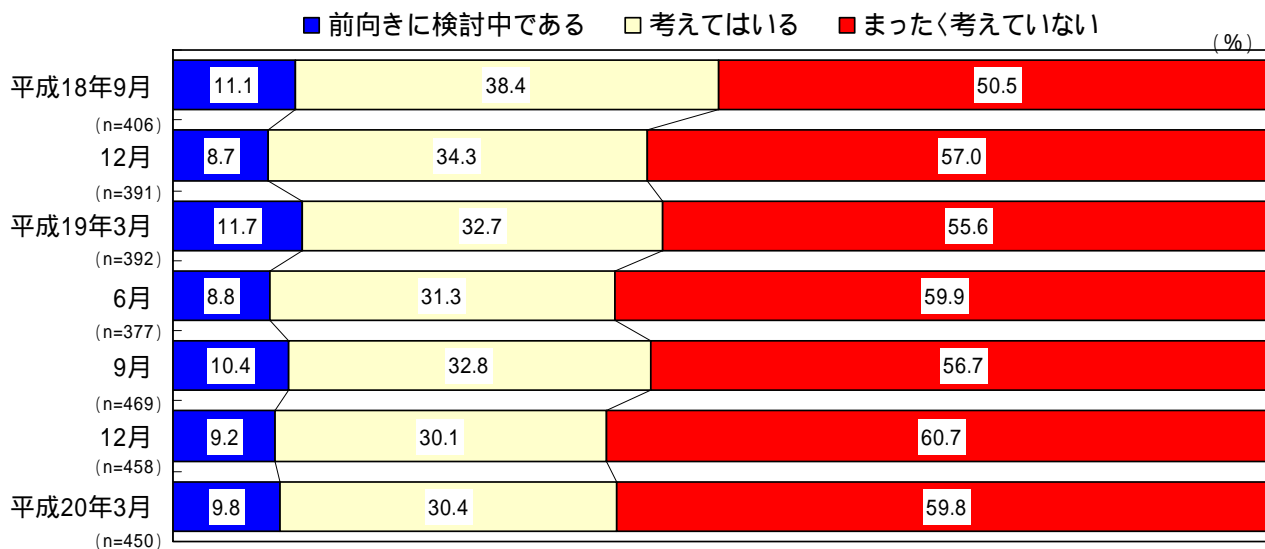
現状認識は「控えている」(13.6%)と「どちらかと言えば控えている」(22.9%)が36.5%を占めており、交際費を節約している世帯が徐々に増えている。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えるという世帯の割合は引き続き増えており、支出を手控える傾向は続く。



4. 大きな買い物に関する判断と見通し

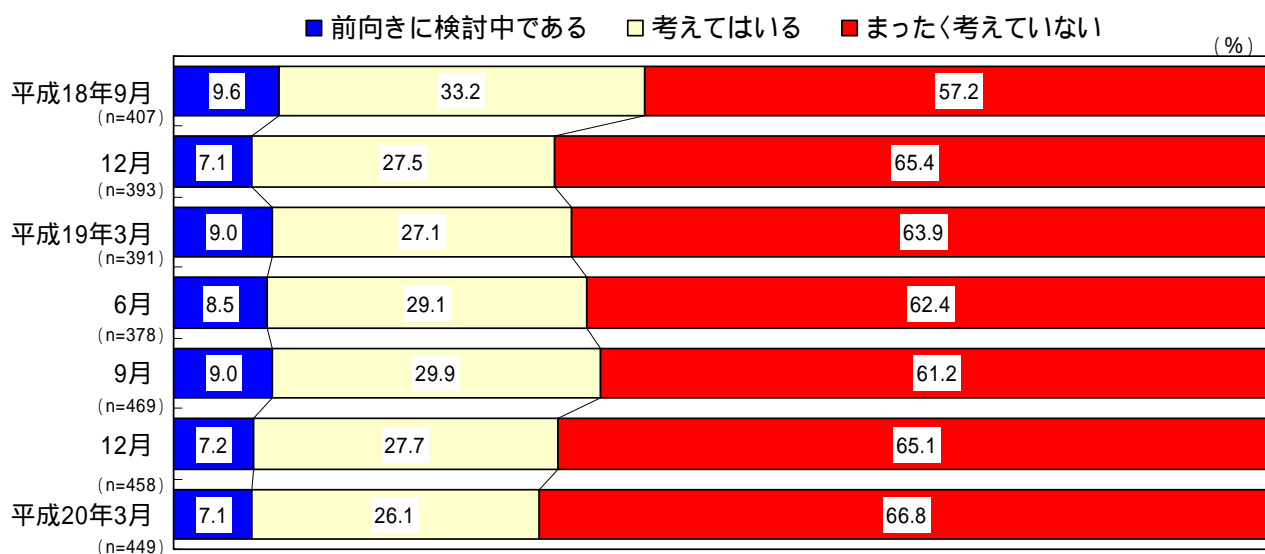
自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が59.8%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は0.9%減ったものの、引き続き購入を手控える世帯は多い。



住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が66.8%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合が1.7%増えるなど、引き続き支出を控える世帯が多い。



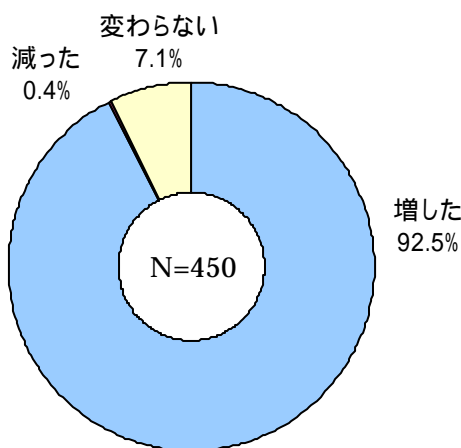


5. 特別調査：食の安全性について

最近、食肉加工卸会社による食肉偽装の事実が判明したり、輸入加工食品から有害物質が検出されるなど食の安全・安心を脅かす事件が相次いでいる。そこで、消費者の「食の安全・安心」に関する意識調査を行った。

食品購入の際の不安

1年前と比較し、食品を購入する際に不安が増したかどうか尋ねたところ、「増した」と答えた世帯は92.5%を占めており、食品を購入する際の不安が高まっている。

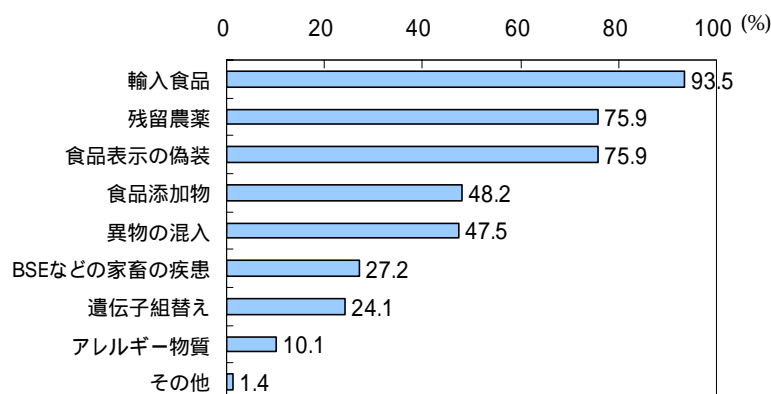


【主な自由回答】

- ・ スーパーに行くのと物の値段が上がっていてがっかりします。その上、輸入物は心配だし、加工品は裏を返して確認しなければならないし、安心して生活できない世の中になってしまいました。（村山地区 53歳 800万～）
- ・ 食品でも何でも、なるべく国産で、産地などがわかるものを買おうとは思っていますが、有機野菜をとまでいくと食費が上がってしまう。外食は安心なのかなど、疑い始めたらキリがない世の中になってきたのが不安です。（置賜地区 40歳 300～499万）
- ・ 食の安全性が一番怖いです。大手だからといって信頼できない輸入の恐怖。自らの防護策をしっかりしなければと思う事件が多すぎます。（庄内地区 31歳 300～499万）

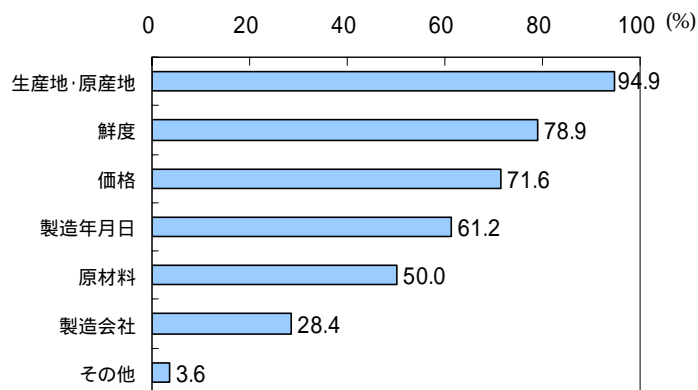
### 不安が増した事柄、原因

食品を購入する際に不安が「増した」と回答した世帯に対し不安が増した事柄、原因について尋ねたところ（複数回答）「輸入食品」という回答が93.5%と最も多かった。続いて「残留農薬」、「食品表示の偽装」という回答がそれぞれ75.9%となっており、これらが食品を購入する際の不安の原因となっている。



### 食品購入時に重視する事柄

食品を購入する際に不安が「増した」と回答した世帯に対し食品を購入する際に重視している事柄について尋ねたところ（複数回答）「生産地・原産地」という回答が94.9%と最も多く、「鮮度」（78.9%）、「価格」（71.6%）と続いた。なお、自由回答から健康のためには多少価格が高くとも安心できる食品を購入する世帯の姿がうかがわれた。



#### 【主な自由回答】

- ・ 今まではただ価格が安ければと思っていましたが、食の安全性の問題が起きてから価格のみでなく原材料や生産地など注意するようになりました。そのため、おのずと価格が多少高くても購入するようになり食費への影響も少なからず出ているように思います。（置賜地区 62歳 300～499万）
- ・ 餃子に限らず冷凍食品を購入することが減りました。小さい子供がいるので、食べ物は必ず原産地をチェックして国内産を買って食べさせたいと思っています。もっと安心できる食生活をおくれたらいいなと思います。（庄内地区 28歳 300～499万）
- ・ 業務用のスーパーに行くのを控え、冷凍食品もなるべく買わないようにしています。以前よりも鮮度のよい野菜を買うようになり、手作り料理の楽しさやおいしさを改めて感じています。宅配もやめ、安くておいしいものを作っていこうと思っています。（庄内地区 38歳 300～499万）

## ．調査の概要

### 1．調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2．調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：484 世帯　今回の有効回答世帯数（回答率）：450 世帯（93.0%）

### 3．調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

### 4．調査期間

- ・ 平成20年3月1日～14日

### 5．調査項目

#### （1）判断項目

景気判断（五肢択一）：

「県内景気」<sub>1</sub>、「雇用環境」<sub>1</sub>、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」<sub>1</sub>、「資産価値」<sub>1</sub>、「お金の使い方」<sub>1</sub>、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」<sub>1</sub>、「ファッション衣料・靴など」<sub>1</sub>、「家電・AV製品、家具など」<sub>1</sub>、「金融商品（株式、債券など）」<sub>1</sub>、「娯楽・レジャー」<sub>1</sub>、「習い事」<sub>1</sub>、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」<sub>1</sub>、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

#### （2）計数項目

最近1ヵ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(0.5)、「悪い」(1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

**<お問い合わせ先>**

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本/齋藤(信)/草薙

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL: 023-626-9017

FAX: 023-626-9038

E-mail: kenkyuu@sfsi.co.jp

URL: <http://www.sfsi.co.jp/>